

木材共販市況

共販事業では、B・C材を中心としてこの時期としては少ない入荷量に加えて良材が不足しているなか、令和元年12月5日に年末謝恩市を開催することができました。

共販・販売事業を含めた素材取扱量は1,006㎡となり、平均単価9,937円/㎡とA材不足により価格の低迷が続いておりますが、市況については、構造材の入荷が減少した影響で品薄感から持ち合いから強含みの傾向となりそうな気配です。

一方、バイオマス燃料用丸太の入荷量は、取扱開始から11月末で2,362トンに達し、想定を超える入荷によりチップの生産が追い付かない状況ですが、製品チップ126トン(榎横須賀バイオマスエナジー)へ販売しました。

小径木加工工場は、台風19号による被害により操業が停止しているため、加工丸太の供給に支障をきたし、大変御迷惑をお掛けして申し訳ございません。

現在、2月末を目途に早期復旧に向け全力で取組んでいるところです。

県森連林業センター 木材市況

令和元年12月5日 (単位:円)

樹種	長さ(m)	末口径(cm)	価格1㎡当り			気配	摘要	
			高値	中値	安値			
スギ	3.0	14	11,000	9,000	4,000	○	柱目3.5寸	
		16~18	12,000	11,000	5,000	○	// 4寸	
		20~	12,000	11,000	5,000	○	中目	
	4.0	11~13	10,000	8,000	4,500	○	母屋取り	
		14	11,000	9,500	6,000	△	桁目3.5寸	
		16~18	12,000	10,500	6,000	△	// 4寸	
		20~22	12,000	10,500	6,000	△	中目	
		24~28	14,000	12,000	6,000	○	//	
		30~	15,000	12,000	6,000	○	//	
	6.0	16~18					元玉選木	
20~22						通し柱4寸		
ヒノキ	2.0	26~	25,000	10,000	5,000	○	元玉	
		3.0	14	15,000	13,000	8,000	○	柱目3.5寸
			16~18	19,000	18,500	14,000	△	// 4寸
			20~22	19,000	18,500	14,000	△	中目
			24~28	18,000	16,000	13,000	○	//
	30~	20,000	15,500	13,000	○	元玉選木		
	4.0	11~13	10,000	9,000	8,000	○	母屋取り	
		14	16,500	14,000	9,000	○	土台目3.5寸	
		16~18	18,500	18,000	10,000	△	// 4寸	
		20~22	18,500	18,000	11,000	△	中目	
24~28		18,500	15,500	11,000	△	//		
30~		23,000	16,000	12,000	○	//		
6.0	16~18	35,000	25,000	20,000	○	元玉選木		
		20~22	35,000	25,000	20,000	○	通し柱4寸	
	20~22	35,000	25,000	20,000	○	// 5寸		

注) 売上総数量965.149㎡ △ 強気配 ○ 保合 ▼ 弱気配

発行所
秦野市葛蒲317番地
神奈川県森林組合連合会
総務指導課
電話 0463-88-6767
ホームページ http://www.kenmoriren.jp/

年頭のご挨拶

神奈川県森林組合連合会



代表理事会長 小泉 清隆

新年明けましておめでとうございます。森林組合の皆様並びに関係機関、団体の皆様におかれましては、健康やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、相次ぐ台風の影響や多発した集中豪雨など自然の猛威に晒された一年となりました。残念ながら多くの尊い命が犠牲となり、住み慣れた生活基盤に甚大な被害が発生し、今なお、復旧・復興の途上にあります。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

さて、昨年は四月に森林経営管理法が施行され、新たな森林管理制度がスタートするとともに、森林環境譲与税の市町村及び県への交付が始まりました。この税を活用して、都市部の自治体を中心に、緑地の森林整備や、木造公共施設

の整備など木材利用の促進が期待されることから、市町村の取組を的確に捉えて対応できるように、情報収集を行うとともに事業確保に向けた宣伝等活動を行ってまいりました。

また、昨秋から稼働・発電が始まった横須賀バイオマス発電所への燃料用チップ供給を開始しました。安定的な供給に向け、原料となる間伐材の集荷に努めるとともに、効率的なチップ生産を目指して工夫や検討を重ねております。

さらに、県が進めてきた水源地域の公的森林が順次契約満期を迎え、森林所有者の手に返されていく中で、森林組合系統が、長期施業受委託契約地の確保・拡大に努めながら、これらの森林をまとめて森林経営計画を樹立し、地域の森林整備・管理の担い手としての基盤づくりに努めてまいりました。

本年もこうした業務にしっかりと取り組むことで、組合員の皆様と山からの還元ができるよう進めてまいりたいと考えております。本年も昨年にも増して、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

全国森林組合連合会



代表理事会長 村松 二郎

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、全国森林組合連合会の業務運営につきまして特段のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は令和の新たな御代を迎えましたが、森林・林業界にとりましても、永年の悲願であった森林環境税が創設され、森林環境譲与税が各自治体に初配分となり、森林経営管理制度の運用がスタートするなど、まさに新時代といえる大きな節目の一年となりました。

こうした中、森林組合系統では、森林所有者への意向調査や、意欲と能力ある林業経営者への登録など、森林経営管理制度への対応を進めてきたところです。

一方、林道等の路網整備は未だ遅れており、林業生産基盤を早急に整えていく必要がある他、境界不明や所有者不明森林の増加に対し、ICT技術の活用も含めた林業イノベーションを進め、林地情報活用や施業の集約化・効率化を図っていかねばなりません。

人口減少社会に突入する中、林業技能者をいかに確保するかという課題に対しても、緑の雇用等の人材確保・育成事業の拡充に加え、安全で魅力ある職場へと就業環境の改善を図っていく必要があります。

また、森林組合経営基盤の強化

これらについては、昨年十月に開催した全国森林組合代表者大会において大会決議を行い、森林組合系統がこれまで培ってきた技術と能力を最大限に発揮し、災害からのいち早い復旧・復興と林業の成長産業化に取り組み、組合員と地域の信頼に添えていくことを打ち出したところです。

また、平成二十八年度から取組を開始した系統運動「森林・林業・山村未来創造運動」については最終年度を迎えるところであり、効率化や基盤整備、販売・供給体制の構築、労働安全やコンプライアンスなどの所要の目的達成に邁進するとともに、次期運動方針の策定を進めてまいります。

最後に、森林組合系統活動への引き続きのご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様お一方お一方にとって、幸多き素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



**森林環境譲与税を活用した
地元産間伐材学習機の製作**

今年度から市町村に交付された森林環境譲与税は、国税として令和6年度から納税者1人当たり千円を徴収し、パリ協定の枠組みの下における温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などに活用されます。

本会では森林・林業のプロとして幅広い業務を行って行く予定ですが、今年度は伊勢原市において、地元産の間伐材を使用した学習機を製作し、伊勢原市内の小中学校へ納入することが決まっております。

この学習機は、スギを使用して

令和元年10月1日からの消費税率改正に伴い実施される軽減税率等について、県森連2階会議室にて税理士法人サンパートナーズオフィス欠畑誠二税理士を講師にお招きし、森林組合の経理担当者を対象とした「軽減税率制度等説明会」を令和元年8月7日に開催しました。

軽減税率対象品目や仕訳を行う際の留意事項、経過措置の取扱いについて、また令和5年から施行される適格請求書等保存方式（イ

軽減税率制度等説明会の開催

おりますが、表面をペット樹脂加工することで、スギの欠点であるキズが付きやすいことや強度が不足することを補うとともに、木目の良さを生かして、木のぬくもりを感じることが出来ます。

この学習機を使用することにより、地元産の木材が使用され、森林整備が促進されるだけでなく、使用する子供たちが木材の良さや利用する意義を学ぶことが出来ます。

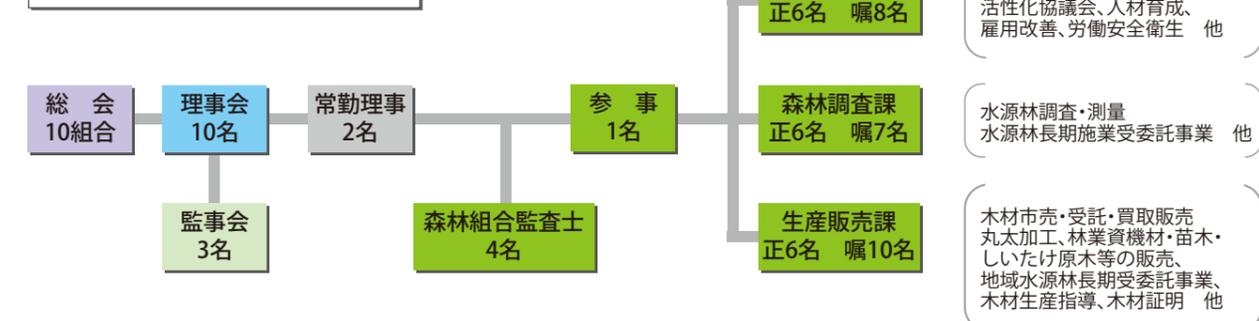
今後はほかの市町村への利用拡大へ向けて、PR活動に努めていきます。

ンボイス制度）の導入に関する説明がありました。

軽減税率制度の仕訳や適格請求書等保存方式（インボイス制度）は森林組合の業務にも関わってくるため、出席者の皆さん熱心に講義を聞いていました。



神奈川県森林組合連合会組織図
R1.12.1現在



**横須賀バイオマス発電所竣工
県森連チップ生産始まる**

(株)横須賀バイオマスエナジー（横須賀市浦郷町、横須賀BE）では、横須賀バイオマス発電所が完成、令和元年11月1日から操業を開始しました。

開業に先立ち、昨年10月7日に竣工式並びに記念式典が行われ、行政、町内会、設計監理、施工者、燃料供給者など約80人が参加、本会からは小泉会長、稲垣専務、谷常務が出席しました。

同発電所は、京急追浜駅から約2キロメートルの東京湾に面した場所にあり、発電出力は6,950kw、FITを活用したバイオマス発電事業となるほか、燃料を製

造・供給する中間処理施設（チップ工場）が併設されています。

発電の主燃料は、横須賀市や近隣自治体で発生する街路樹や公園樹木の剪定枝などです。使用量は燃料チップが年、約91,000トンで、地域で発生するこれまでは利用されてこなかった間伐材、剪定枝、街路樹等を燃料として有効活用する都市型のバイオマス発電所と位置付けられています。

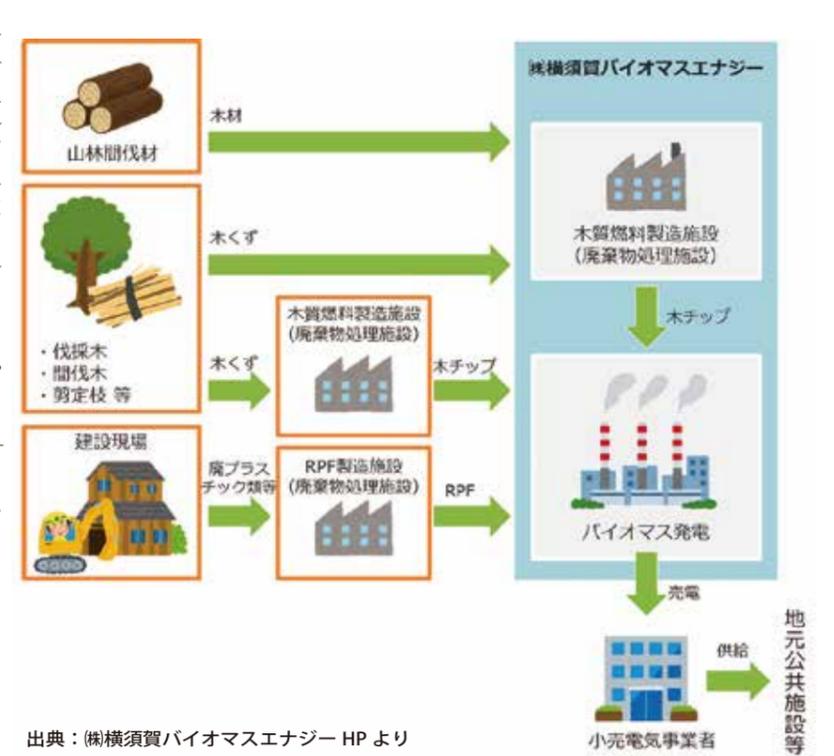
同発電所は、産業廃棄物の処理やリサイクルを手掛ける㈱タケエィが設立、同社は津軽、花巻、大仙などで木質バイオマス発電に参入しており、ここ横須賀は4か所目となります。

本会は、横須賀BEとの間で燃料となるチップを供給する協定を締結するとともに、チップターの購



入（中古）、生産されたチップのストックヤードやトラックに積み込むためのステーション造成、さらにチップの品質確保のために丸太の含水率調査を重ね、チップ化する適期を見極めるなど、円滑な供給に向けた準備を重ねてまいりました。

原材料となる間伐材は、同発電所の本格稼働スケジュールに合わせて昨年5月から集荷を始め、9月からチップ生産を開始し、10月3日にコンテナ車で初出荷をしまし



た。

今後は、チップ積載車（約50m³積載）で、毎日1台を目途に運搬を予定しています。

会員の皆様の御協力もあり燃料用間伐材の集荷は順調ですので、今後は、チップ化生産経費、運搬コストを少しでも低減させ、同発電所にチップを安定供給していくこと、本会の主力事業の一つとなるよう育てていきたいと考えています。

農中森力基金のご紹介

名称 「公益信託 農林中森力再生基金」
(通称：農中森力(もりぢから)基金)

目的 国内の荒廃した民有林の再生により、森林の公益性を発揮させることを目指した活動に対して助成し、もって森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とします。

助成対象事業内容

国内の荒廃した民有林の公益性を発揮させることを目指した活動であって、地域の森林に対する長期ビジョンをもった活動でかつ費用対効果に十分配慮した創造性が高いと認められる以下の事業に対する助成金の支給を行います。

- ・ 複数の森林所有者との長期安定的な契約に基づく、ひとまとまりとなった荒廃林の再生事業(多面的機能の向上を目指した利用間伐・切捨て間伐、被害森林の整理伐・更新、天然更新のための択伐、間伐等を行っても再生が困難と見込まれる森林の更新等の施策を条件とする)

- ・ 右記に附帯する林地境界明確化、林地調査、不在村者調査
- ・ その他目的を達成するために必要な事業

助成対象者

営利を目的としない法人で、過去の活動歴等からみて本活動を運営するに十分な能力、知見を有する団体(ただし、地方公共団体は除く)。

選考方法

当公益信託の運営委員会が、当信託の趣旨、目的に照らし、事業内容や事業の効果等を総合的に勘案して選定します。具体的には、以下の条件に該当する事業の中から、特に、(1)に重点を置いたうえで、緊急性、継続性、波及性等が高い事業とします。また、当該事業が実施可能な相応の態勢を有する、もしくは態勢強化が見込まれる団体を確認のうえ選定します。

- (1) 助成終了後も継続性・波及性が認められる事業
- ・ ノウハウ・技術・生産性の向上、コスト削減等の取組み
- ・ 地況・林況・森林施策等が同種の

事例紹介

農中森力基金(第5回)助成決定案件からの抜粋

①事業名：平泉町長島の光を地域全体に!

～ 徒歩によるデジタル情報の取得とその活用～

・ 助成対象先：一関地方森林組合(岩手県) 事業実施面積53ヘクタール

概要

当組合は、森力基金(第1回)の助成を受け、「世界農業遺産」申請の中核に当たる長島地区において、100名を超える所有者で短冊状に区切られた森林(35ヘクタール)の施業集約化に取り組んだ。その結果、境界明確化に想定以上の労力がかかること、地形条件等により機械稼働率が低下すること等更なる課題が明確となった。このような課題のある森林は当地区その他にも存在することから、当組合が克服しなければならぬと認識している。

当事業では、将来に渡る森林資源の循環利用、公益的機能発揮、景観保全を図るため、縦長の短冊状の所有地(53ヘクタール、所有者11名)において、森林GIS・GPSによる

地域における模範となる取組み・事業基盤充実(人材育成、機械化等)を目指した取組み
(2) 過去に例の少ない先進的事業
(3) 山づくりの長期的ビジョンが描かれ、それに基づいて申請事業の位置づけが明確な事業
(4) 施業対象となる森林の整備が危急と認められる事業
(5) 協同組合・地元住民・ボランティア・行政等と連携した活動

信託財産等

- 2019年から2023年まで5回募集(第6回から第10回)
- 年間助成額2億円、助成期間5年(10億円を上限)
- 1件あたりの助成金の限度額は30百万円とします。

スケジュール(予定)

- ▼ 2019年4月 募集開始(第7回)
- ▼ 2019年6月 募集終了(第7回)
- ▼ 2020年3月 助成先決定(第7回)
- ▼ 2020年4月 助成事業開始(第7回)
- ▼ 2020年3月 助成事業終了(第7回)

林業就業相談会の実施

林業に興味のある方や林業への就職・転職を考えている方を対象に就業・生活相談会を実施いたしました。

実施日は、令和元年8月3日(土)で参加者は19名でした。

この相談会は、林業への就業を希望する人を対象に1日間の林業に関する現場見学等を通じて、林業への基礎的な学習を行い、林業事業者との意見交換等を実施するものです。

これにより、参加者が林業に対する認識を深めるとともに、就職に向けて自分の適性を確認できる情報を得てもらい、林業就業への支援を図るものです。

当日の内容は、県立21世紀の森での高性能林業機械等による作業展示の見学、当会の会議室での作業員との質疑、意見交換、県森林再生課職員による県内林業の状況説明、就業に向けた各種研修の紹



②事業名：気仙川上流に位置する未整備森林「衣替え」

～ 新たな気仙杉林の再生に向けて～

・ 助成対象先：気仙地方森林組合(岩手県) 事業実施面積 24ヘクタール

概要

事業対象地のある住田町は、岩手県北上山系東南部に位置し、三陸海岸南端の水産資源豊かな「広田湾」に注ぐ「気仙川」を有する気仙地域に位置する。「森林・林業日本一」を目指し、様々な町の支援(県民税による伐捨て間伐やFSC認証林等)により発展してきたが、町の

境界確定の迅速化、レーザーセンシングによる立木材積等の森林資源情報収集、地形条件に適した路網整備および架線集材の導入による生産機械の稼働率向上に取り組む。これら各種データを履歴管理、次世代への指標とし、長島地区全体が更なる施業集約化・森林再生のモデル地域となることを目指すこれら取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：73398,000円、森力助成：15208,000円

支援対象にならなかった小規模林家については、集約化が困難であった多くの森林が放置され、間伐が手遅れになりかねない状況になっている。当事業では、町中心部から離れ急傾斜地が多く所有が小口分散化した地区(24ヘクタール、所有者29名)で、施業にかかる合意形成、造林時に開設した基幹作業道の拡幅等路網整備により大型フォワーダおよびプロセッサ等高性能林業機械を導入した新たな作業システムの構築により、当地域の森林の再生・多面的機能の発揮・持続可能な森林経営体制の実現を目指す。東日本大震災以降本格化してきた復興需要等にこたえる体制の整備にも繋げたいとするこれら取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：35048,000円、森力助成：20190,000円

お問い合わせ先

農林中央金庫
農林中央金庫
関東業務部 営業第一班 渡部
(TEL) 03-5220-9672

※募集につきましては、所定の助成金交付申請書への記入が必要となります。前回募集時の申請書様式が全

組合探訪

清川村森林組合新事務所

清川村森林組合は平成30年8月27日、新事務所に移転しました。旧事務所が入っていた「道の駅きよかわ」の拡張に伴い平成28年5月から移転計画が始まり、平成30年8月に新事務所が完成、同30年8月27日から業務開始となりました。



新しい事務所は木造合金メッキ鋼板葺き平屋建て、床面積279.06㎡、建設用材の一部や事務所内備品に清川村産材を使用してい

ます。新事務所は木の温もりを感じる、とても明るい建物です。清川村森林組合にお話しをうかがいに行ってきました。

新事務所は前組合長が設計の段階からスペースの確保を考えておられたということなので、事務所内はとて広々とした印象です。外の駐車スペースもかなりの広さがあり、職員や現場作業員の皆さんは新事務所にとっても満足しているそうです。

また、一つの大きな目標でもあった、事務所内での総会開催が可能になり、外部に会場を借りる必要もなくなりました。この会議室を使用し、令和元年5月28日に



神奈川県森林組合連合会 役員の変更

就任
代表理事専務 稲垣 敏明
監事 大館 秀孝

退任
代表理事専務 服部 俊明
代表監事 北村 眞佐雄

単位森林組合 組合長の変更

松田町森林組合 代表理事組合長 大館 秀孝

神奈川県森林組合連合会 職員の退職

平成三十一年三月三十一日付
鈴木 健司
(現在、森林調査課
シニアマネージャー)

令和元年六月三十日付
清水 宏子



NEW FACE

愛川町森林組合

■新井 雅之

【令和元年7月1日付採用】

【年齢】35歳

【趣味】音楽鑑賞

民間の林業事業体で作業員として森林整備に従事し、現在住まいを構えている愛川町の森林組合で長期施設受委託の担当をさせていただくこととなりました。まだまだ慣れない仕事に日々勉強中ではありますが、早く仕事を覚え、今までの経験も活かせる様努力してまいりますのでよろしくお願い致します。



山北町森林組合

■山崎 さとみ

【平成30年8月1日付採用】

【年齢】28歳

【趣味】買い物、旅行

私の出身は、自然豊かな山北町です。大学卒業後、約5年間事務職を経験したのち、同組合に入社しました。生まれ育ったこの町に携わる仕事ができること、とても嬉しく思います。前職での事務経験はありますが、初めての事が多く、日々勉強です。これから更にたくさんの方の知識を身に付けていきたいです。そして多岐にわたる組合の事業を支え、組合に貢献できるよう精一杯努めたいと思います。



「緑の雇用」研修を修了して

伊勢原市森林組合

■菊田 健介

緑の雇用を3年無事に終えることができ、先ず会社の上司、同僚並びに事務局の方々に感謝したいです。仕事をしながら外部に勉強に行かせて頂いて自分のスキルアップを目指せるのはとてもありがたくモチベーションの向上にも繋がりました。

研修では林業の基礎的な知識、法律から技術の習得まで毎回幅広く知らない事を吸収するチャンスがあつてそれを仕事にどう活かしていくか考える事が重要でした。更に林業に従事するのに必要不可欠な様々な資格も取得する事ができ身になっていきます。

3年間一緒に研修をした同期のみんなとの繋がりはとても大切で様々な情報交換もできて互いの成長を見て良い刺激にもなりました。今後は次のステップに上がるべく日々努力して成長して行きたいと思っております。



松田町森林組合

■谷川 友則

私は「かながわ森林塾」の第7期卒業生です。卒業後、松田町森林組合の作業班に所属して4年目になります。採用された年から3年間「緑の雇用研修」に参加させて頂き、「OJT研修・集合研修」を通じて林業作業に必要な専門的知識・技術・技能を基礎から学ぶことができました。また研修の中で特別教育・技能講習等を受講し林業に必要な資格も取得しました。

OJT研修の指導員の皆さんは「緑の雇用研修」の終了者ですので心強かったです。

研修は、経験豊富な林業会社の方々を講師に迎え、さまざまな作業方法・安全対策を長年林業に従事している方から聞くことができ、とても勉強になりました。

研修期間には、他の林業会社や森林組合に所属する同期の研修生との出会いもあり、作業方法などの情報交換をしたりプライベートで遊びに行くこともあります。わたしの財産です。

今後はこの研修で得た知識・技術、そして仲間を大切にしながらなる向上に務めていきたいと思っております。